

現代社会における多元的な“個人の尊重”

社会福祉学科 福祉政策系 寺田暖

人権論の基本概念の一つである「個人の尊重」をとり上げる。現代社会では一元的な個人尊重概念の逆機能が目立つ。憲法学・社会福祉学における議論の組み立てから、現代的状況に関する社会学的考察も含めて概念の補完について論じた。

現代社会ではライフスタイルの多様化や SNS の普及など個人のもつ規範秩序を複雑化させる要因が見られ、強者-弱者の関係が場面により相対的となり「個人の尊重」が社会的不利を是正する意味をもつとは限らない。人々は弱者の属性を積極的に公表して個人として尊重される権利を主張するアイデンティティ・ポリティクスを行い、それが抑圧的意味をもつ事態も増えている。

ここに単一次元の個人尊重概念の限界がある。個人が複数の規範秩序をもつ存在であることを相互に認め、場面に応じてさまざまな側面を自由に表出することができるような多元的な“個人の尊重”が現代社会で重要である。このような個人尊重概念の補完方法について理念的考察と実践的含意の検討を行った。